



淀川愛好会 YODORIC NEWS

No.82 2018 年 7 月 発行

〈社会人の窓 2〉

流域思考

石中 英司



私は淀川下流の大阪市旭区に在住し、旭区の区政会議の防災を含む部会に参加しています。先日、大阪北部で地震が発生しましたが、旭区は南海トラフ地震を想定した防災が主体でした。しかし最近の台風による大雨を見ると大阪市内でもいつ浸水が起きてもおかしくない状況です。

区政会議で水害も想定した対策に取り組むべきと主張し続けて、やっと防災に「水害」という項目が入るようになりました。しかし、淀川流域での水害に対して、旭区（区北部を淀川が流れる）だけで対応できるのでしょうか。自然災害は行政区分に関係なく発生します。区政会議なので区内で完結できることだけでよく、そうでない部分は大阪市の防災担当が考えることとしてしまい、そこで思考停止になっています。隣の都島区や対岸の東淀川区と連携してできることはないのか、あるいはもっと上流側と連携するために旭区でできることはないのかなどという発想には至りません。つまり「流域思考」という「流域単位で考えること」がおろそかになっていると言わざるを得ません。

洪水等による水害はまさに流域単位で対処すべき事案だと思います。平成 25 年の台風 18 号のとき瀬田川の洗堰を全閉にすることによって下流への被害が低減されましたが、上流の琵琶湖周辺部で浸水被害が発生しました。しかし下流の住民はそんなことが起きていたなど知る由もありません。本来昔からあった私たちの「流域思考」は水辺から遠い存在になるに従って失われたのかもしれない。

その一方で淀川流域の多くの団体が様々な活動を通して、市民を水辺に呼び戻そうとしていることは「流域思考」を取り戻すことに繋がると思います。

そして「流域思考」は住民参加なしには成立し得ないものです。流域単位で考え、具体的な政策を提言するにも、その形成過程に住民参加が不可欠です。住民参加と言っても様々な形態がありますが、住民に対して常に情報をオープンにして、丁寧に議論を積み上げていく過程が重要であると思います。

私たちは淀川流域での洪水被害を低減するために、淀川中流（京都府南部）の巨椋池に遊水地をつくる構想を検討しています。水理学の専門家や河川関係者などが集まって検討していますが、流域住民にもその情報をオープンにし、賛同や理解を得られるように丁寧な作業を積み上げていきたいと考えています。

*「流域思考」は、特定非営利活動法人鶴見川流域ネットワーキング代表理事で慶應義塾大学名誉教授の岸由二氏が提唱されている考え方。

（淀川流域勉強会 会員）

イベント報告

友呂岐水路花見舟下り

4月7日(土)に寝屋川市の友呂岐水路・友呂岐二十箇水辺ひろばでEボートを運航しました。まだ少しだけ桜が残っていて、景色を楽しみながらの親水体験となりました。このひろばは駅から少し離れているため、分かりにくい場所でしたが地元の方々が乗船に来てくださいました。友呂岐・二十箇水辺ひろばは私たち大学生と地域住民との協働で工事を行い、作り上げた「水辺広場」なので大切な場所となっています。(B・M)

親子花見乗船体験・木津川展

4月8日(日)に京田辺市の馬坂川にてEボートと一人乗り用カヌーを使い地域の子供たちからご年配の方まで、多くの人に参加して頂くことが出来ました。安全を第一に活動を行い無事に活動ができ、地域の人たちと交流を深めることも出来ました。また、1人乗り用カヌーを使い地域の子供たちとレースも行い楽しむことも出来ました。このように地域の人達と交流しながら自分たちの活動をいろんな人達に広められたらいいなと思いました。(F・K)

春のイベント「大川クリーン活動 & 川で学び・つながる」

4月29日(日)に帝国ホテルの前から対岸の大川沿いの桜之宮公園まで、クリーン活動を行いました。その後大阪ふれあいの水辺にてEボートで楽しんでいただきました。今回の活動には初めての参加となり、緊張していたのですが、堅苦しい雰囲気はなく、ゴミ掃除を終えてとても気持ちよかったです。その他にビーチではカワヒガイなどの魚を捕まえて、その魚について詳しい説明が行われていましたが、御年配の方から小さな子供まで幅広い層の方々にお集まりいただきました。今回の活動を通じて、自身の力で「街を綺麗にした」という達成感や喜びがありました。(M・R)



出会いの島(豆島)フェスタ 2018

5月12日(土)に兵庫県尼崎市・猪名川の豆島でEボートなどのイベントが行われました。エコシビル部からも10人ほど参加しました。その日は、天気も良くボート日和になりましたが、前日の雨の影響で水位が高く、不安要素もあったものの慎重に活動を行い、部員もお客様のことを第一に考え、安全面を考慮したため、無事イベントを成功させることができました。また、いろんな方からお礼や楽しかったなどのお言葉をいただき、とても嬉しく思います。来年も参加できることを楽しみにしています。(S・K)

外来魚駆除釣り大会 in 淀川 2018

5月13日(日)午前到大阪工業大学の近くの淀川で、外来魚釣り大会が開催されました。釣竿などを貸出し、外来魚を釣ってもらうというイベントなのですが、今年は大雨で、お客さんが集まるか不安でした。しかし、総勢120名ほどの人が参加していただき、国外外来魚であるオオクチバスやブルーギル、国内外来魚であるヌマチチブなど、35匹の外来魚を釣る事ができました。毎年楽しみにしてくださっているんだなという事を肌で感じる事ができ、このイベントがもっと沢山の人の人に認知していただける事が出来れば良いなと感じました。(M・D)

クリーンリバー寝屋川作戦・春

5月27日(日)に寝屋川市内の寝屋川・たち川での全12か所に分かれて清掃が行われ、地域の自治会、住民、企業、大学と500人を超える多くの人々が参加しました。2001年から毎年2回のクリーンリバーを継続していることで川の水質や景観などが良くなっています。川を清掃するにあたって、自転車のタイヤなど不法投棄されたゴミが多くあり、小さなゴミでも集まると川の環境を変化させてしまうので一人一人の心がけが重要となってくると感じました。(T・T)

天若湖アートプロジェクト2018

6月2日(土)・3日(日)に京都府南丹市の日吉ダムにて天若湖アートプロジェクトが開催されました。日吉ダム建設にあたり、5つの村が沈んでしまいましたが、「あかりがつなぐ記憶」では各々の建物があつた場所に灯りを灯して、昔を思い出していただけです。夜中に見ると天若湖に漂う灯りはとても幻想的で、写真を撮ろうと挑戦するかたも多くいましたが暗くなっているため上手に撮るのは難しいみたいでした。2日の午後には、摂南大学茶道部による天若茶屋を開催し、お茶をいただきながら地域の方が昔話に花を咲かせていました。5月20日(日)にNHKの取材班による灯りの製作様子がテレビで放映された影響か、今年は来場者も多く喜ばしい結果となりました。(M・K)



今後のイベント詳細

活かそう水辺、つなごう流れ「近畿水環境交流会 in 淀川点野」

日時 2018年8月4日(土)・5日(日)

場所 1日目 摂南大学寝屋川キャンパス 11号館 11階スカイラウンジ

(京阪電車寝屋川市駅西側バス乗り場から京阪バスで約15分、摂南大学前で下車すぐ)

2日目 淀川河川公園点野地区河川敷(摂南大学前から徒歩約15分)

内容 1日目 9:30-10:00 午前の部受付(摂南大学寝屋川キャンパススカイラウンジ)

10:00-12:00 近畿子どもの水辺大阪交流会

近畿各地における子どもたちの水辺活動発表(12団体程度、発表は指導者でも可)

13:30-14:00 午後の部受付

14:00-17:00 シンポジウム

14:00- 開会挨拶 実行委員長 澤井健二

14:15- 講演「水災害とその対策について」近畿地方整備局河川部 水災害対策専門官 林貴宏様
「福井におけるマイタイムラインの取り組み」福井河川国道事務所副所長 田村友秀様

15:30- 活動紹介 5団体程度(うち河川協力団体 2~3団体)

17:30-19:00 懇親会

2日目 8:30- 9:00 受付(淀川河川公園点野野草地区、砂州前テント)

9:00-9:30 河岸清掃

9:30-10:00 開会式

10:00-12:00 種々の水辺利用の実践(生物観察、水質測定、スケッチほか)

12:00-13:00 昼食休憩(昼食は各自持参、希望者には弁当予約販売あり)

13:00-15:00 Eボートレース

15:00-15:30 閉会式、後片付け

(荒天の場合は午前中に摂南大学でワークショップ、午後とも天候が回復しない場合は昼食後解散)

主催 近畿水環境交流会・河川フォーラム実行委員会(主な構成団体:淀川愛好会、河川協力団体近畿連絡会、琵琶湖・淀川流域圏連携交流会、摂南大学石田ゼミ・エコシビル部)

後援 国土交通省近畿地方整備局、環境省近畿地方環境事務所、(独法)水資源機構関西・吉野川支社、NPO法人川に学ぶ体験活動協議会、(公財)河川財団近畿事務所、(一社)近畿建設協会、(公財)琵琶湖・淀川水質保全機構、滋賀県、大阪府、兵庫県、三重県、奈良県、和歌山県、寝屋川市)

協力 淀川河川公園、淀川まると体験会実行委員会(8月5日は近畿水環境交流会と同じ場所で淀川まると体験会が行われ、相互に参加することができます。)

参加費 無料(但し、懇親会は3000円)

参加申し込み 2018年6月20日~7月20日

学部学科を超えた交流や地域の人々とも触れ合いたかったので、私は1回生の6月頃にエコシビル部に入部しました。エコシビル部の活動イメージは、Eボートの運航やゴミ拾いがメインと思っていましたが、点野拠点整備など外来生物の削減という自然環境に対して取り組んでいる部活動ならではのイベントもあり、自然に関して学ぶことも多く知識ができました。

また、新天地という学生が主体となって企画や運営をし、寝屋川を盛り上げる地域イベントでは、他大学と実行委員会を開き、その中で副実行委員長に立候補しました。イベント開催までに準備を万端にするために月に2回、委員会では企画や会計、広報などの役割分担をし、全体の進捗状況の確認や検討を担当しました。施設使用やステージの出演依頼などの申請書には期限が決まっていますが、委員たちも学業やアルバイトがありますので、時には私が施設使用の申請書や、後援者様へ集金に伺うなどのサポートをしました。イベント当日も各ステージが問題なく行えているかチェックしました。結果的に全て順調に進み、地域の皆様方に喜んでいただけました。

その経験から、後に顧問の先生や先輩からの推薦をいただき部長に就任し、今までのエコシビル部での活動経験を活かして数々のイベントを行ってきました。時には活動参加の人数が少ないこともありましたが、部員達と協力し合い励むことが出来ました。

将来、社会に出てチームで働く時にも、エコシビル部の部長としてやってきたことを思い出し、メンバー間での助け合いや何か問題が起きても臨機応変に対応していくことを意識して行動します。

(摂南大学理工学部機械工学科4回生・エコシビル部前部長)

編集後記

謎の桜の正体？

季節外れの話ですが、桜の季節になると、名も分からぬ桜が気になります。八幡市の背割堤の突端、淀川、宇治川と木津川の三川合流点近く木津川の右岸にある入口から最後の樹で、ソメイヨシノに似ていて、五つの花弁は、白色で、微かに緑っぽい清楚な色の桜です。ネットで検索しても名前が分からなかったため、頼みの綱の澤井先生に尋ねました。先生の調査（淀川河川事務所公園課の回答）ではオオシマザクラの雑種らしいとのことでした。長年気になっていたことに答が出て気が楽になりました。

来年のお花見は、是非背割堤で、そしてソメイヨシノ（エドヒガン系の桜と日本固有種のオオシマザクラの雑種の交配種）と見比べてみてください。ちなみにオオシマザクラの本ものは、大阪市立大学理学部附属植物園（交野市私市）にあります。

編集長 相本太刀夫（元摂南大学薬学部教授）